（1）研究課題名

看護ケアの質改善力の探求　-看護QIプログラムを用いた日本版マグネティズムの検討-

研究代表者　上泉　和子

背景

●看護ケアの質評価及び改善の指標として「看護QIシステム」を構築し、運用してきた。評価結果をフィードバックすることで看護ケアの質改善に資することを目的としているが、複数年にわたって活用している病棟の中には、改善に結びつかない病棟もある。そこで、改善活動を推進するために看護ケアの質を改善する力（改善力）や改善活動に影響する要因を明らかにする必要性を感じた。

目的

●看護ケアの質改善力を構成する要素、影響を及ぼす要素を明らかにする。

研究内容・方法

・調査方法：半構成的インタビュー調査
・調査対象者：看護QIシステムを複数年利用している施設4施設を対象とし、1施設4名（看護部長、病棟師長、病棟看護師2名）に実施した。
・分析方法：インタビューから逐語録を作成し、改善力を構成する要素、影響を及ぼす要素を抽出し、類似している項目をまとめカテゴリー化した。

表1　分析結果

カテゴリー	サブカテゴリー
看護師自身の質に関する認識が改善活動につながる	自分の看護ケアを振り返る
	看護ケアの大切な視点を認識する
	変化の実感とフィードバックが改善につながる
組織的改善システム	管理者のサポート
	改善点が明確になる
	可視化されたデータを使って改善に結びつける
	質の評価と改善に関する情報共有
	評価結果の共通認識
	改善活動を組織システムに組み込む
	改善活動のトリガー
	話し合って行動する
改善に関する想い・理念	改善活動に関する意識
学習と実践	研修会による理解とワークショップやコンサルテーションとの連動
	学習内容を実践に活かす

研究成果

■14のサブカテゴリー、4つのカテゴリーが抽出された（表1）。
■看護の質改善力は、看護師個人の認識と組織的に改善に取り組む活動が連動し【改善力】として作用していた。

本研究は「看護ケアの質改善力のベンチマークシステムの構築」を目指した4年計画の研究の1部である。【看護の質改善力】の要素を明らかにし、公表・普及することで、さらに国内の看護ケアの質向上に役立てることが期待できる。